

せん定残さ中の在来天敵によるクリタマバチの防除法

農業研究センター 果樹研究所 病虫化学部

研究のねらい

クリタマバチの防除は、これまでせん定による耕種的防除やM E P・マラソン乳剤の萌芽期散布によって行われてきた。しかし、これらの方法では十分な効果が得られず、労力も多くかかることから、新たな防除方法の確立が望まれている。

このため、従来からクリタマバチへの寄生が知られている在来天敵類を利用した生物防除法について研究を行った。

研究の成果

1. 県内で最も多かった在来天敵はクリマモリオナガコバチで、クリタマバチの数を減らす効果が認められた。
2. クリマモリオナガコバチは、ゴールの中にいるクリタマバチの幼虫に寄生したり、幼虫の体液を吸って(体液摂取)死亡させる。
3. 在来天敵は前年着生したゴール中で越冬する。しかし、これまでは天敵がいるゴールはせん定くずと一緒に埋没したり焼却されていたため、クリタマバチの数を減らすことができなかった。
4. クリマモリオナガコバチを保護するために、せん定くずをクリマモリオナガコバチがゴールから出てくる4月下旬まで園内に置くと、クリマモリオナガコバチが増え、クリタマバチを減らすことができる。
5. せん定くずを長期間置いた場合、実たんそ病の感染源となるので、5月上旬をめぐりに撤去する。また、3月から4月の薬剤散布は、クリマモリオナガコバチに悪影響があるので行わない。



写真 クリタマバチのゴールに産卵するクリマモリオナゴバチ



せん定くずを園内に置いた区



せん定くずを園内に置かなかった区

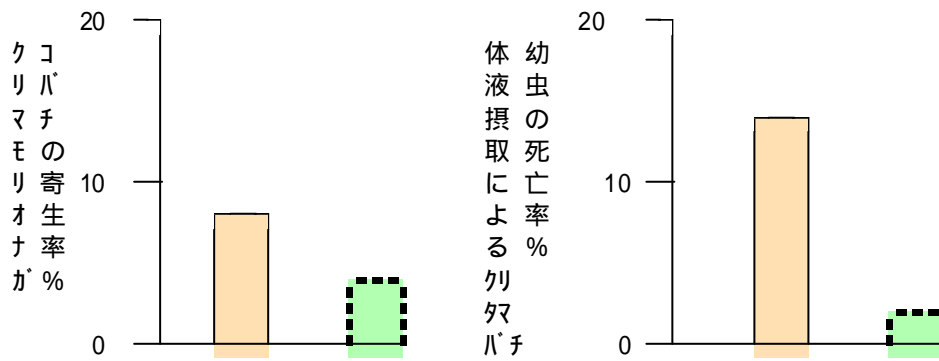


図 2年間せん定くずを園内に置いた場合のクリマモリオナゴバチの効果